

来週の市場とレート予想

上田八木短資株式会社

	1/9 (月)	1/10 (火)	1/11 (水)	1/12 (木)	1/13 (金)
無担保O/N	△0 . 0 8 6 % ~ 0 . 0 0 1 %				
銀行券		+ 4,200	+ 4,000	+ 3,000	+ 2,000
財政他		△ 36,900	△ 15,000	△ 16,000	△ 8,000
資金需給		不 32,700	△ 11,000	不 13,000	不 6,000
主な要因		国庫短期証券発行・償還 (3M) 国債発行(10年)	国庫短期証券発行・償還(6M)	源泉税揚げ	交付税特会借入・償還 国債発行(30年)
オペ期日		共通担保(全店) △ 2,700 国債補完供給 + 2,200 CP等買入 △ 600			
オベスタート	休日	共通担保(全店) + 1,700 ETF買入 + 1,000	国債買入 + 4,800	CP等買入 + 2,500	
(日本)		消費動向調査(12月)	景気動向指数(11月) 日銀雨宮理事講演	国際収支(11月、7-9月) 日銀営業毎旬報告 (1月10日現在) 景気ウォッチャー調査(街角景気 12月調査)	対外対内証券売買(前週分)
(海外)	米 消費者信用残高(11月) 米 ホuston連銀総裁講演	米 求人件数(11月) 米 オバマ米大統領、お別れ演説	米 トランプ次期大統領が 記者会見(ニューヨーク)	米 輸入物価指数(12月) 米 週間新規失業保険 申請件数(7日終了週) 米 イエレンFRB議長が 教育関係者向けタウンホール開催 米 フィアデルフィア連銀総裁講演 米 セントルイス連銀総裁講演 米 シカゴ連銀総裁、アトランタ 連銀総裁がパネル討論会に参加 欧 ECB議事要旨	米 生産者物価指数(12月) 米 小売売上高(12月) 米 企業在庫(11月) 米 ミシガン大学消費者 マインド指数(1月、速報値) 米 財政収支(12月) 米 フィアデルフィア連銀総裁講演

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.04 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.01 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.01 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.02 ~ 0.001

<インターバンク>

日銀当座預金残高は昨年末330兆円台で終わったところ、年明け4日に国債買入オペや銀行券の還収などの要因を受け332兆円台まで増加し、週末6日には332兆8,100億円となった。無担保コールON物加重平均金利は、29日までは△0.048%~△0.041%のレンジで推移し、年末30日には年末越えの調達を控える動きからビッドが減少して△0.058%となった。年が明けると再びビッドが増加して同金利は△0.051%~△0.042%のレンジで推移した。ターム物では、年越えとなる1~2W物で△0.05%~△0.03%のレンジで出合いが散見され、年が明けると同期間で△0.035%~△0.03%の取引が見られた。日経平均株価は年末30日、前日の米国株安等を要因に終値で前日比30円77銭下落の1万9,114円37銭をつけた。年明け4日には世界景気回復を手掛かりに、同値は1万9,594円16銭へ上昇し、15年12月7日以来およそ1年1か月ぶりに1万9,500円台を回復した。

来週の材料としては、国内は日銀の雨宮理事講演(11日)、海外ではトランプ次期米大統領の記者会見(11日)やイエレンFRB議長の教育関係者向けタウンホールミーティング開催(12日)、12月米生産者物価指数(13日)等が挙げられる。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	0.000 ~ 0.005
TDB 3M	△0.350 ~ △0.250
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行額は約4,500億円で、期落ち額約4,200億円(金融機関・ABCP除く)と同程度であった。カード会社の期日が集中した一方で、鉄鋼、石油銘柄の復活発行が見られた。a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.0010%割れで推移した。

現先レートの中心は、△0.100%~0.000%程度で推移した。来週の期落ち額は4,200億円程度となっている。引き続き、鉄鋼、石油の大型の復活発行が期待されるため、発行超となろう。

<TDB>

5日に国庫短期証券3M第655回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.3424%(前回債△0.3952%)、平均落札レートは△0.3618%(同△0.4125%)と前回債と比べて利回りは上昇した。セカンダリーは3Mで△0.36%近辺の地合いとなっている。6Mは△0.39%近辺の地合い、1Yは目立った出合いは見られなかった。来週12日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

12月最終週の足許GCは△0.095~△0.085%の水準で始まった。30日受渡しは、期末要因により資金調達ニーズは限定的で、△0.30%~△0.20%が出合いの中心となった。1月受渡しでは△0.09%近辺の出合いが続いたが、週後半は短国の発行が重なりレートが上昇、△0.08%近辺の出合いも一部見られた。SC取引においては、12月末越えて一部銘柄の流動性が極端に低下し、△0.60%以下の取引も多く見られた。10年345回債は、発行日前日まで△0.50%以下の出合いが続いた。他は2年370・371回債、5年128・129・130回債、10年330・333・335・341・342・343・344回債、20年158・159回債、30年52・53回債等に引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。